

### 3 第4学年 異文化理解 Let's enjoy Mihara Daruma!

教育学研究科 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 大下 眞理子

#### 1 はじめに

私は子どもの頃から外国に非常に興味があり、教職についてから20数回の海外渡航を重ね、訪れた国は延べ約50ヶ国になる。教員になって初めてフィリピンの人たちを学校へ招き、遊びを通して国際交流を行ったのは1998年ころであった。その後、「総合的な学習の時間」の創設があり、管理職の立場で英語活動と国際交流活動を中心とした国際理解教育の指定校として研究実践をすすめてきた。その取り組みの中で解決したい課題がでてきた。

この度、思いもかけず海外で直接に授業ができるという好機に恵まれ、この課題解決に少しでも役立つと考え参加した。

#### 2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/22	木	16:20-17:30 C527	事前研究1 渡航までの日程や諸準備の確認	授業研究テーマの設定方法
5/13	木	12:50-14:20 L204	Culture and Pedagogy	
5/23	日	10:01-19:51 広島他	BCU学生案内	
5/27	木	16:20-17:30 C527	事前研究2	授業研究テーマ案の交流
6/17	木	16:20-17:30 C527	事前研究3	学習指導案の検討
7/15	木	16:20-17:30 C527	事前研究4	学習指導案の検討 渡航のための諸手続き
7/17	土	第1会議室	第6回学校間交流国際フォーラム	
7/18	日	C527	2010 体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ 2010 体験型海外教育実地研究発表会	
8/27	金	9:30-11:00 C527	事前研究5	学習指導案の検討及び教材・教具の作成 渡航のための諸手続き
9/2	木	14:40-16:00 C527	事前研究6	学習指導案の検討及び教材・教具の作成 渡航準備
9/8	水	14:40-16:00 C527	直前打合わせ	報告書作成及び発表会の打ち合わせ

9/11	土	広島-成田 0745-0925 NH-3128 成田-ワシントン 1105-1040 NH-2 ワシントン-ローリー 1235-1340 NH-7144		米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel & Bistro 203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC27834 Tel:877-271-2616
9/12	日		East Carolina University 事前の打ち合わせと準備	Greenville 同上
9/13	月		学校訪問 Elmhurst Elementary School 学校, 授業観察 小学校の先生と打ち合わせ	Greenville 同上
9/14	火		学校訪問 Elmhurst Elementary School 授業観察, 授業実践 (小倉さん, 内田さん, 澤口さん, 大下)	Greenville 同上
9/15	水		私立学校訪問	米国ノースカロライナ州 Raleigh Clarion State Capital 320 Hillsborough St. Raleigh, NC Tel:919-833-1631
9/16	木		学校訪問 Exploris M.S	Raleigh
9/17	金	ローリー-ワシントン 1025-1130 NH-7145	アメリカ文化体験	Washington DC Washington Plaza 10 Thomas Circle, N.W. Washington, DC20005 Tel:202-842-1300
9/18	土		アメリカ文化体験	Washington DC 同上
9/19 9/20	日 月	ワシントン-成田 1220-1525 NH-1 成田-広島 1750-1925 NH-3129		機中泊
12/16	木	事後指導 発表会		

### 3 実地研究授業

#### 3.1 単元等名 第4学年 異文化理解 「Let's enjoy Mihara Daruma!」

#### 3.2 事前準備

##### ① 単元設定の理由

本授業のねらいは、日本の文化の一つである、だるま、特に地方の文化である「三原だるま」の由来やそれに込められている人々の思いや願いを知ることによって、日本の文化に興味をもつとともに、アメリカの子どもたちにも自分の住んでいる地方の文化に関心をもたせることである。

また、自分の願いを込めて三原だるまに目や顔を描き入れ、全体に色付けする体験活動を通して、いつまでも夢や願いをもち続け、その実現に向けて努力をしてほしいという願いから、本単元を設定した。

##### ② 準備物とその意図

###### ○ 三原だるま

アメリカの子どもたちが実際に自分の願いや思いを込めて三原だるまに目や顔を描き入れ、全体に色付けをする体験を通して、日本の文化により関心をもたせる。

白い色の30個の三原だるまを子どもたち一人ひとりにプレゼントとして手渡した。

全員が大変喜び、意欲的に取り組むきっかけとなった。



【写真1 色付け前の三原だるま】

###### ○ 三原だるまの大きな絵

だるまのイメージをもたせるために三原だるまの大きな絵を前の掲示板にはった。自分が作ろうとするだるまのイメージがはっきりして、目標をもって学習に取り組むことができた。

###### ○ 三原だるまの説明書

三原だるまの由来などについて三原だるま工房や三原観光案内所で詳しく聞いて、英語での説明書を作成したが、電子黒板のため、口頭での説明となった。

###### ○ 日本の子どもたちの夢や願い

三原だるまの目を描き入れるために、日本の4年生の子どもたちの願いや将来の夢の紹介をした。とても興味深く熱心に聞いており、アメリカの子どもたちの願いも幅広くユニークで、スケールの大きいものから生活に密着したものなど多岐にわたっていた。

###### ○ クレパスとクレヨン

だるまの色付けをするために、色がつきやすい少しやわらかめのクレパス等を配布したが、ふだんから子どもたちが使っているクレパスが準備されていた。

### 3.3 学習指導案

Lesson Title : Let's enjoy Mihara Daruma !  
 Lesson Author : Mariko Oshita  
 Date : September 2010  
 Grade Levels : 4  
 Subject : Multicultural Education  
 Description : In this lesson, students notice that each country has its own culture. And they get interested in Japanese Daruma.  
 Goal : This lesson will encourage students to develop a respect for their own culture and different one, too.  
 They keep having their wishes, dreams in the future.  
 Objectives : As a result of this activity, the children will be able to :  
 1 Understand traditional culture, Mihara Daruma.  
 2 Enjoy making Mihara Daruma.  
 3 Know their own wish through drawing Daruma's eye.  
 Materials, Resources and technology : Mihara Daruma<sup>30</sup>, picture of Mihara Daruma, Paper, Paper in which Japanese students wrote their wish, Marker pen, Paintings

Procedure :

Activity	Instruction of teacher	Materials
1. Learn on Mihara Daruma.  Look at this picture of Mihara Daruma and a hand-sized Daruma.	1. Explain today's lesson by showing students a picture of Daruma and a hand-sized Daruma. • Know an origin of Mihara Daruma • Paint a face, eyes, and a body of Daruma	• A picture of Mihara-Daruma  • 30 hand-sized Daruma
2. Learn on a Prayer Daruma and its eyes.	2. Explain that people express their wishes by painting Daruma's eyes.  Explain Japanese students' wishes.	• The paper on which Japanese students wrote their wishes.

Activity	Instruction of teacher	Materials
<p>3. Paint a face and eyes of a hand-sized Daruma. Write their own wish on paper.</p> <p>4. Paint a body of Daruma.</p> <p>5. Show their Darumas to classmates and introduce their wishes written on the paper.</p> <p>6. Listen to the teacher's impression on today's lesson.</p>	<p>3. Support students with their drawing daruma's face and an eye. (Only one eye to be drawn)</p> <p>4. Support students with their painting.</p> <p>5. Pay special attention to eyes.</p> <p>6. Sum up the lesson's point.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• marker pen</li> <li>• paper</li>   <li>• paintings</li> </ul>

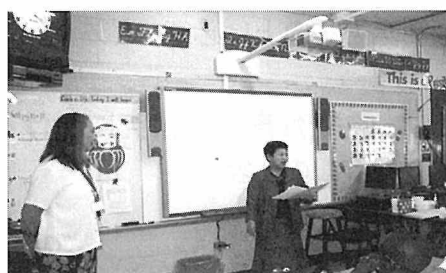
### 3.4 授業の実際

#### (1) 導入

自己紹介を行い、三原だるまの大きな絵を用いて本時の学習内容について説明した。大きな絵はわかりやすく、だるまの色や形に大変興味をもったようすであった。

#### (2) 三原だるまの由来の説明

三原だるまとその由来とそれに込められている人々の思いや願いについて説明をした。準備していた説明書は電子黒板のため掲示ができず、口頭での説明となったが担任の先生の支援もあり、由来について理解できたようすであった。



#### (3) 目の説明

人々は願いを込めて片方の目だけを描き入れ、**【写真2 三原だるまの説明】**それが実現した時に、もう一方の目を描き入れることを説明しながら実際にだるまに描き入れて見せた。子どもたちは真剣によく聞いており意欲が伝わってきた。

#### (4) 日本の子どもたちの夢の紹介

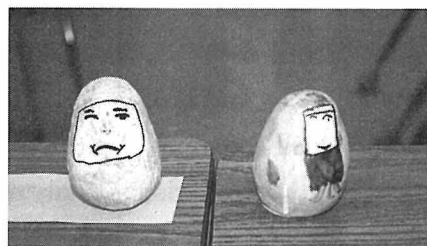
三原だるまを全員に手渡しをして、日本の4年生の子どもたちの将来への夢を紹介した。一生懸命に聞いていて次の活動への意欲づけとなった。

#### (5) アメリカの子どもたちの夢の発表

夢は個人情報になるので希望者だけの発表となったが、積極的にたくさんの発表があり授業が活発となった。

#### (6) 目,顔などの色付け

自分の好きな色でだるまの目,顔を描き入れ全体に色付けをして作品を完成させた。子どもたちは大変楽しみながら意欲的に集中して取り組んでいた。ピンク,緑,青など色とりどりのとてもセンスのよい個性あふれる楽しい自分のだるまが完成した。



【写真3 願いを込めた だるま】

#### (7) 作品の鑑賞

グループで作品を鑑賞しあった。どの作品もほしくなるほどすばらしい仕上がりであった。全員が自分のだるまを大事そうにうれしそうに見ていた姿が印象的であった。

### 3.5 考察 (○成果,●課題)

- 事前の担任の先生との打ち合わせがしっかりでき,本時の目標について理解が得られたので,担任の先生の支援がある中で予定通りに授業が進み,日本の文化を伝えることができた。
- 三原だるまの説明では,だるまの大きな絵と握りだるまの実物を見せたので,だいたいイメージが掴めた様子で体験活動に興味をもたせることができ,最後まで全員が楽しく取り組むことができた。
- 日本の子どもたちの夢や願いの紹介は,アメリカの子どもたちが夢などを書く時の意欲付けとなり,また,三原だるまの由来を理解することにもつながった。
- 夢の実現に向けて努力をしてほしいという願いは,時間不足で十分に伝えることができなかった。
- 電子黒板を活用して,だるまの絵を描くなどすれば,もっと授業に変化がでたかもしれない。
- 英語力の向上は必須である。

## 4 体験型教育実地研究における自己変容

### 4.1 教育観の変容

#### ① 子ども観

以前に数回,アメリカの学校視察研修に参加したが,今回は今までとは異なった印象を受けた。特に Elmhurst 小学校の子どもたちは,学習規律がしっかりと身につけていて先生や友達の話の聞くことができる。また,根気強く集中して学習に取り組むことができ,することが全てに早い。個々の考えをしっかりともって自己主張がはっきりとできる。真面目に一生懸命に努力をしている子どもが大半で以前の日本の教室のようであった。我々も原点にもどりたいものである。

#### ② 授業観

本時で何を勉強するかがはっきりとしていて,先生も子どもも,その目標に向けて一生懸命に取り組んでいる。先生は大きな声ではっきりと丁寧に根気強く指導をしている。子どもたち全体と個々を把握しながら,時間をあまり気にせず,その課題が出来るまで精力的に指導している。基礎学力の定着に向け,最新の教育機器を駆使しながら2~3

人の先生で個に合った指導を行っていて、着実に学力がついていると感じた。

### ③ 学校観

特別支援教育にも力を入れており、各教室には3人、多くて4人の先生がT.Tとして指導している。人的配置が行き届いていて日本では考えられない教育体制である。教材・教具がいろいろあり、電子黒板も各教室に設置され、すばらしい教育環境である。教育熱心な先生が多く、個々のポリシーをもち、自信をもって教育実践に取り組んでいた。また、危機管理も徹底しており、全教職員が自覚をしている。

#### 4.2 自分自身についての変容

アメリカの子どもたちに授業をするのは初めての経験であった。担任の先生の日頃のすばらしい学級経営のもと、基本的な生活習慣や学習規律の徹底、確かな学習指導による学習の習慣化が子どもたちにされていて、外国にもかかわらず授業が大変やりやすかった。担任の指導力が重要であるということは万国共通であることを身をもって体験した。

また、子どもが35人のため、三原だるまが5個不足となった。いろいろと相談の結果全員がだるまを作ることにより、異文化を伝えるという授業の目的と人権尊重の立場から全員に同じように授業をさせなければいけないという考えから、一昼夜のうちに同じだるまを6個も作ってくれた。驚きと感謝で感動した。まさに責任ある民主主義の国である。

#### 4.3 グローバルマインドに関する変容

今や国際化社会の時代のなかで、人・物・金・情報がたやすく国境をこえ、文化の多様化が進んでいる。異文化の人々との接触も日常的になり、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度を養い、異なる文化をもった人々とともに生きること、そして行動する能力を習得することが重要となる。一昨年中国の外国語学校の訪問では、ALL ENGLISHでの英語の授業を、そして、この度のアメリカでは、教員の複数配置による基礎学力の充実に向けての確かな授業を目の当たりに見てきた。

では、日本はいったい、どの方向をめざせばいいのだろうか。

21世紀の子どもたちを教育するのは、少なくとも学校であり、学校の先生である。

その役割は責任重大である。しっかり精進したいものである。

## 5 おわりに

今回の研修を計画・実施して下さったGPS C関係の先生方には、心からお礼申し上げます。現地でも大変世話になり、ありがとうございました。

また、Dr. Sandra Warrenをはじめノースカロライナ州で私たちを受け入れて下さった関係者のみなさまに、心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、GPS Cの今後の益々のご発展と、この「体験型海外教育実地研究」に参加された若き先生方の将来のご活躍を祈念いたします。

ありがとうございました。